日口交流 積み上げを

ユーラシア協が全国総会

県立音楽堂

日本ユーラシア協会の第53回全国総会は17日、金沢市の県立音楽堂交流ホールで2日間の日程で始まった。全国から集まった約160人が、日本とロシアをはじめとするユーラシア諸国との交流促進について話し合った。

日口交流の促進などを話し合った総会＝県立音楽堂交流ホール

日本ユーラシア協会は会員約3千人で、金沢での総会は1985（昭和60）年以来となった。県ロシア協会の中村勲会長は歓迎あいさつで、旧ソ連時代から親善に尽くした森茂喜旧根上町長に触れ「人と人の交流を積み上げ、日ロ平和条約の締結に結び付けたい」と述べた。

日本ユーラシア協会の竹田正直会長（北海道大名誉教授）は、金沢のロシア人墓地がきれいに整備されていることに感銘を受けたとし、「石川の方々が温かい思いで墓を守っていると感じた」とあいさつした。中西吉明副知事、森源二金沢市副市長が祝辞を述べた。

18日は午前9時から金沢市のリファーレで抑留問題や文化交流、脱原発などをテーマに7つの分科会が開かれる。このうち、学術・経済交流の分科会は市民も参加できる。

最後の修了生24人に認定書

能登里山マイスター

金大「能登里山マイスター」養成プログラムの修了式は17日、珠洲市三崎町小泊の同大能登学舎で行われ、中村信一学長が4期生24人に認定書を手渡した。プログラムは今年度で終了し、5年間で62人が里山マイスターに認定された。

中村学長が「能登の明日を担う志を持ち決意を新たにしてほしい」と式辞を述べ、修了生代表の萩野由紀さん(45)＝輪

「土地に根差し光を当てた」と語った。新年度から

ガラス張りで手も出ない

テナガザル舎 改装オープン

いしかわ動物園

いしかわ動物園（能美市）で17日、改装したシロテナガザル舎がオープンした。前面中央部が鉄格子から強化ガラスに取り換えられ、家族4頭のほぼ笑ましい姿を間近で観察できるようになった。

ガラスは幅4・5メートル、高さ2・1メートル。これまで子ザルが格子の間から長い腕を伸ばし、客が向けたカメラや携帯電話を奪うこともあった

が、今後は安撮影できる。

同園では改ンを記念して日までの土日日、先着100特製クリアフルをプレゼントする。

同乗ルポ

雰囲気

新潟と大阪を結び、半世紀にわたり真夜中のJR北陸線を走り抜けた急行「きたぐに」が17日、定期便の運行を終えた。同日未明、金沢駅から大阪行きの最終便に乗り込んだ。帰省する学生、旅行の親子連れ、鉄道ファン。乗客たちは最後の思い出を作ろうとそれぞれの時間を過ごしていた。（北脇大貴）

午前3時4分、きた

ファンが写真撮影する大阪行きの急行「きたぐに」＝17日午前3時7分、JR金沢駅

ワイド